

|              |  |      |     |      |        |
|--------------|--|------|-----|------|--------|
| 授業科目名        | 疾患別理学療法Ⅶ（内部障害②）  | 授業形態 | 講義  | 配当学期 | 2年（前期） |
| 担当教員名        | 山田 真輔  | 単位数  | 1単位 | 時間数  | 30時間   |
| 授業概要<br>学習目標 | <p>〔授業概要〕</p> <p>人間が疾患を患うには原因があります。医学的な治療により疾患を完治したとしても、原因が改善されなければ、その人の生命予後やQOLを改善することは難しい。<br/>                 疾患の病態や治療を理解することは言うに及ばず、その人の性格や生活習慣などにも目を向けて、発症した原因も追求していく意義は大きいと考えられます。<br/>                 すなわち、疾患の病態や治療、そして、患者の背景にある問題点も考察し、そして運動療法が与える影響についても講義していきます。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>生活習慣と各疾患との関係性を、説明することができる。<br/>                 各疾患の病態を、説明することができる。<br/>                 運動が上記病態に及ぼす影響について、説明することができる。</p> |      |     |      |        |
| 授業回数         | 授業内容   |      |     |      |        |
| 第 1 回        | 文明社会における疾患モデルの変換：飢餓から飽食、感染症から自己免疫疾患  |      |     |      |        |
| 第 2 回        | 循環器系の解剖生理の復習と、運動が循環器系に与える影響について  |      |     |      |        |
| 第 3 回        | 虚血性心疾患の病態・原因・分類・医学的な治療とリハビリテーション<br>特に生活習慣と動脈硬化性疾患の関連、そしてリハビリテーションの意義  |      |     |      |        |
| 第 4 回        | 心電図  |      |     |      |        |
| 第 5 回        | 嫌気性代謝・好気性代謝におけるエネルギー代謝について<br>嫌気性代謝閾値と酸素摂取量に影響を与える因子の検討  |      |     |      |        |
| 第 6 回        | 慢性心不全について、HFpEFとHFrEFの病態と評価方法  |      |     |      |        |
| 第 7 回        | 慢性心不全のForrester分類と各subsetにおける医学的治療とリハビリテーションについて   |      |     |      |        |
| 第 8 回        | 慢性心不全の代償機転と治療戦略について<br>神経体液性因子が骨格筋に与える影響と、運動療法が神経体液性因子に与える影響   |      |     |      |        |
| 第 9 回        | 急性期における心疾患患者の運動療法、目的とリスク管理   |      |     |      |        |
| 第 10 回       | 回復期・維持期における心疾患患者の運動療法、運動処方や消費エネルギーの計算  |      |     |      |        |
| 第 11 回       | 糖質・脂質・タンパク質のエネルギー代謝と糖新生について  |      |     |      |        |
| 第 12 回       | 糖尿病の病態と合併症について<br>各合併症における運動時のリスク管理  |      |     |      |        |
| 第 13 回       | メタボリックシンドロームの病態<br>インスリン抵抗性が骨格筋に与える影響と異所性脂肪について  |      |     |      |        |
| 第 14 回       | 筋力トレーニングの運動処方について<br>各項目（種類・強度・回数・頻度）の現在におけるエビデンスを紹介します。   |      |     |      |        |
| 第 15 回       | 行動心理学について<br>患者の行動変容とそれに対するアプローチをグループワークを中心に実施します。   |      |     |      |        |
| 評価方法         | レポート課題にて評価を行う。（100%）   |      |     |      |        |
| 教科書<br>参考図書  | 〔教科書〕「標準理学療法学 内部障害理学療法」 医学書院   |      |     |      |        |
| 履修上の<br>留意点  | 呼吸循環系の解剖学や生理学について、復習しておくこと。  |      |     |      |        |
| メッセージ        | 内部障害に対する介入は、今後の医療において重要となります。<br>興味を持って取り組んでください。  |      |     |      |        |